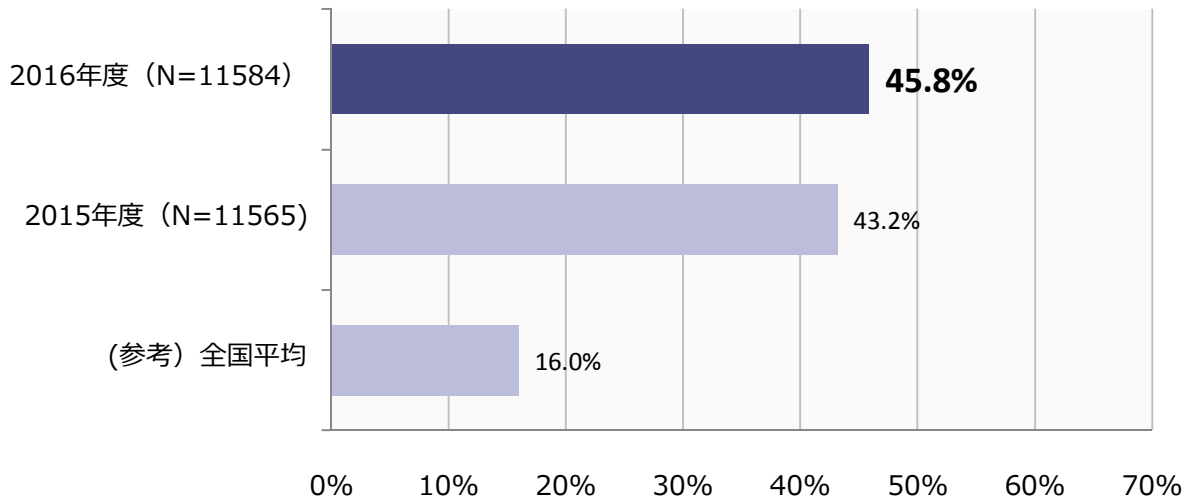


リハビリテーション介入率（実施率）

全国的に急性期の基幹病院でのリハビリ介入率は高くない現状（平均16.7%）ですが、当院では40%前後で推移しています。今後も平均在院日数は低下が予想され、より早期からリハビリ介入し、ADL低下および廃用の予防が、スムーズな転院、退院に向けて重要となります。

急性期病院ではリハビリを実施する前に転院、退院となるケースも多く、早期介入ができていることを示す指標としては介入率が適していると考えます。



当院値の定義・算出方法

分子： リハビリを実施した入院患者数
分母： 全入院患者数

$$\frac{\text{分子}}{\text{分母}} \times 100 (\%)$$

結果の考察および今後の取り組み

リハビリテーションの早期介入は重要と言われていますが、急性期病院では平均在院日数が短く、当院も10日前後で推移しています。

リハビリテーション介入率は早期介入がどの程度できているかの指標となります（急性期基幹病院のリハビリ介入率は平均16.7%）。この指標を上げることで通常リハビリが想定される疾患以外の疾患に対しても必要に応じて早期からのリハビリが提供できていることにつながると考えています。

文責：リハビリテーション室室長
溝口 雅之